

1 委員長挨拶

◆はじめに

このたびは、第47回白門祭参加者必携本を手にとりいただきありがとうございます。当冊子には、白門祭で企画を実施するために必要な手続きや注意事項が記載されています。

当冊子をご覧の皆様は企画を実施しようと考えている方が多いと思いますので、企画を実施する前提として知っておいていただきたい白門祭の理念や白門祭に関わる事柄について紹介し、委員長挨拶とさせていただきます。

◆白門祭の理念

白門祭とは、前夜祭1日を含めた計5日間の、総来場者数5万人にもおよぶ関東最大級の学園祭です。ここでは白門祭の2つの理念について説明させていただきます。

① 『自治・文化活動発露の場』

中央大学が駿河台キャンパスから多摩キャンパスに移転したのはいわゆる全共闘時代の全盛期であり、その影響によって学生の表現活動には不便な点が残ってしまいました。

そのような背景から、白門祭は学生の皆様に日頃の成果を表現していただく場として存在しています。表現する内容は、学術的・文化的なものから料理の腕の披露まで、その手法・範囲ともに制限は無く、学生の自由な発想に基づく多種多様な企画を推奨しています。しかし、自由には責任がつきものです。当委員会は自由な自己表現に伴う義務や責任を果たすために「自治」を貫徹することを目標にしています。

② 『地域に根ざした白門祭』

我々は、日頃から周辺地域の方々より様々な協力を得て大学生活を営んでいます。そのため、白門祭はお世話になっている地域の方に恩返しをする場としても存在しています。当委員会は、地域の方々との親密な関係の形成と、地域に対する還元活動を目標にしています。

◆企画全面保障

上記のように、当委員会は学生の自由な発想に基づく企画を推奨しており、学生の自主性を尊重するために、どの企画も原則全面的に保障する「企画全面保障」の立場をとっています。

ただし、企画の保障を受けるには当委員会の規定に従って説明会に参加し、書類を提出していただく必要があります。また、「企画全面保障」に関しても一部例外がありますのでご注意ください。詳しくは p.12 「実施に制限のある企画」を参照してください。

◆白門祭にかかわるものごと

さて、ここからは白門祭の理念と関わる『飲酒』、『前夜祭』および『環境活動』についてご紹介します。

① 飲酒

今年度も昨年度と同様、学部棟の一部とペDESTリアンデッキ上の一部区域が酒類提供エリアとなっており、「酒類提供企画」を実施することができます。ここでは「酒類提供企画」が現在の形に至るまでの経緯を紹介させていただきたいと思います。

白門祭では現在、一部のエリアに限り飲酒が可能となっていますが、2000年度までは前夜祭も含め全面的に飲酒が可能でした。しかし、お祭り気分による過度の飲酒が原因で、150名程度が泥酔状態に陥り、多摩地域中の救急車が中央大学に集まるという惨状になってしまいました。

そこで大学は2001年度、白門祭における禁酒措置を発表しました。しかし、これは当委員会に事前連絡も無いままに一方的に出されたものであり、学生の「自治」を侵害するものでした。当委員会はこの禁酒措置に対して反対はしないが協力もしないという姿勢で臨み、その年は「酒類提供企画」を実施できない結果となりました。その後大学側との協議を重ねた結果、翌年度の2002年度においては、当委員会の主催する「酒類提供企画」のみではありますが、大教室1部屋で飲酒が可能となりました。そして2003年度から酒類提供エリアの移転および拡大を行ってきました。禁酒措置から2010年度までの学生の意識の高まりもあり、泥酔者ゼロの状態を維持し続けることができました。

近年では、2011年度に管理体制の不備により泥酔者が発生するという事態を引き起こしてしまいましたが、その反省を受け翌年には管理を徹底しました。その結果、昨年度では泥酔者の発生を無事ゼロにすることができ、学生による「自治機能」の一定の回復が成せました。

今年度も以上のような方針を継続し、飲酒事故防止策のますますの向上を目指します。その第一歩として皆様には白門祭における飲酒のありかたについて一度考えていただき、今後の「酒類提供企画」実施のためにご協力をお願いします。

各々が節度をもって飲酒をすること、これが学生による「自治機能」を回復するために必要であると我々は考えています。

② 前夜祭 — 『大学 24 時間開放』 を目指して—

現在、中央大学は朝8時から夜23時までしか解放されていないため、学生の「自治文化活動」は阻害されているといえます。そこで当委員会では前夜祭を起点として、24時間完全開放を目標としました。つまり前夜祭の目的は、大学24時間開放の機会をつくることにあります。

以前の前夜祭は、企画実施の準備日として認められるにとどまり、実質的な完全開放ではありませんでした。しかし、当委員会の行うオールナイト企画などの24時間開放という特性を活かした文化的な企画を通じ大学側もその認識を改め、前夜祭の企画実施が公認されました。

白門祭期間と同様に企画を前夜祭で実施できるようになって、今年で5年目となります。ぜひ、この機会に前夜祭を盛り上げるような企画を実施していただければ幸いです。

③環境への取り組み

以前の白門祭では、来場者や学生から捨てられる大量のごみの処理について何ら対策を行ってこなかったため、大学構内にはごみが散乱していました。また、ごみの分別、回収を大学側に任せていたため、学生の「自治」といえるものではありませんでした。

こうした状態を改善するため、2007年度に学生の手でごみを分別、回収する「エコステーション」を設置して以来、ごみの散乱状態は多少改善したものの、未だ完全なものとはいえませんでした。そこで2011年度から当委員会の管理のもと「エコステーション」と併せて構内に設置してあるごみ箱でもごみの回収を行いはじめました。以降、ごみの散乱状態は改善されつつあります。

また、大量のごみが捨てられる白門祭では、環境に与える負荷も多大なものとなります。そのため当委員会では、環境にやさしい「エコ容器」の普及や、ごみの分別の徹底によるリサイクルの促進を行うなど、環境に配慮した白門祭を目指しています。

◆終わりに

白門祭は今年で47回目を迎えます。長い歴史の変遷の中で、白門祭は日々進化を遂げ、現在ますますの盛り上がりを見せています。また、我々実行委員会一同の意識の高まりも同様と言えましょう。しかし、白門祭を本当に盛り上げるためには、我々だけでなく皆様の積極的な参加が必要不可欠です。上述した「酒類提供企画」や環境対策活動などはあくまで皆様の企画運営がより円滑に進むためのものに過ぎません。つまり、企画一つ一つの成功、ひいては白門祭全体の成功は、参加者である皆様の双肩にかかっていると言っても過言ではないのです。現在この冊子を読んでいる段階ではあまり実感の湧きにくいことと思いますが、実際に白門祭を迎えた時にきっとそのことを肌で感じるができるでしょう。

我々白門祭実行委員会は企画の成功に向け、全力で皆様をサポートさせていただきます。今年も素晴らしい白門祭を一緒に作り上げましょう。

中央大学白門祭実行委員会
委員長 福村 岳史